

## 秋の九州視察会 概要報告

JAPIC森林再生事業化委員会

10月28日(火)～29日(水)の1泊2日で、JAPIC森林再生事業化委員会メンバーの有志(24名)による九州視察会及び地域モデルマスタープランの打合せを行ってきました。

1. 日時 10月28日(火)～29日(水)

2. 場所 熊本県周辺地域

3. 工程 以下に示す通り

(参加メンバー24名)

月日	時間	行程	場所	視察内容等
10/28	8:00	羽田発JAL1803便	東京羽田	
(火)	9:50	熊本空港着	熊本県熊本市	熊本空港1F 到着ロビー集合(10:00)
	10:20	熊本空港出発		車6台に分乗して移動
	11:00	合流	八代市坂本支所	王子木材緑化(株)様、中国木材(株)様合流
	12:00	日本製紙仏石社有林着	熊本県五木村	民国連携による林道建設現場の視察
				PS灰作業道・鹿ネット・皆伐現場(跡地)視察
	13:30	日本製紙仏石社有林発		民国連携予定線遠望・列状間伐跡地視察
				オペレーション状況の視察等
	14:20	住友林業山江社有林着		民国連携路網1本・定性間伐現場
	15:30	住友林業山江社有林発		
	16:10	人吉市総合福祉センター着	熊本県人吉市	地域モデルマスタープラン打合 (熊本南部森林管理署、地元関係者)
	17:30	人吉市総合福祉センター発		
	18:00	旅館(鍋屋旅館)着		
	18:30	懇親会	鍋屋旅館	
	20:30	懇親会終了		
10/29	8:30	旅館出発	熊本県人吉市	(株)泉林業 野村課長合流
(水)				
	9:30	(株)泉林業現場到着	人吉市木地屋町	林業機械の稼働状況等の視察
	11:30	林業現場出発		
				車移動(途中昼食)
	14:00	新栄合板工業(株)着	熊本県水俣市	合板工場視察
	16:00	新栄合板工業(株)発		
	18:00	熊本空港着	熊本県熊本市	
	19:15	熊本空港発(JAL3986便)		出発ロビーにて解散
	20:50	羽田空港着	東京羽田	



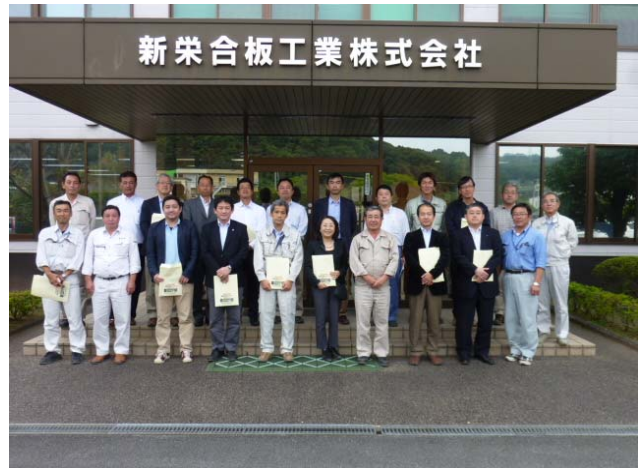
1日目 林業現場(住友林業(株)様の現場にて)



1日目 地域モデルマスタープランの打合せ  
(人吉総合福祉センター)



2日目 林業機械現場(泉林業(株)様の現場にて)



2日目 合板工場(新栄合板工業(株)様の工場にて)

参加者リスト

	所属	氏名	所属等
1	慶應義塾大学	米田雅子	先導研究センター 特任教授
2	林野庁施工企画調整室	佐藤 肇	施工企画調整室長
3	日本製紙(株)	松本哲生	原材料本部林材部長代理
4	日本製紙木材(株)	鈴木由之	営業統括本部営業統括部チームリーダー
5	住友建機販売(株)	見坂正義	営業企画部応用機担当主査
6	国際航業(株)	竹本 孝	空間情報基盤技術部長
7	(株)大林組	水野良治	技術本部環境ソリューション部 副部長
8	鹿島建設(株)	亘理 篤	環境本部環境ソリューショングループ次長
9	タマホーム株式会社	谷口 猛	工務部購買課課長代理
10	王子木材緑化(株)	荒井 均	林業部部长
11	王子木材緑化(株)	乙木良伸	
12	住友林業(株)	片岡明人	BCP対応・特命担当兼山林環境本部副本部長
13	住友林業(株)	那須留治	日向山林事業所副所長
14	住友林業(株)	中井康貴	日向山林事業所所長
15	日本製紙木材(株)	大場謙三	西日本支店八代営業所長
16	日本製紙木材(株)	山本敏博	西日本支店八代営業所長代理
17	住友建機販売(株)	井之上 靖	販売促進グループ応用機兼道路機械担当
18	九州経済連合会	加來英彦	産業第一部次長
19	(株)レンタルのニッケン	応縁団太郎	営業開発部長兼林業事業部長
20	(株)レンタルのニッケン		
21	中国木材(株)	大野英輔	常務取締役
22	中国木材(株)	内本好則	国産材事業原材料部山林管理課主任
23	コマツ	三宅敏雄	シニアフェロー
24	JAPIC	伊東俊昭	事業企画部長
1	九州森林管理局	矢野彰宏	森林整備部長
2	九州森林管理局	黒木興太郎	計画課流域管理指導官
3	九州森林管理局	高木周一	資源活用課課長補佐
4	熊本南部森林管理署	石神智生	署長
5	熊本南部森林管理署	中嶋紀光	森林技術指導官
6	独)森林総合研究所森林農地整備センター	中村博之	熊本水源林整備事務所長
7	熊本県	長崎屋圭太	森林整備課長
8	熊本県	長谷川誠	森林整備課審議員
9	熊本県	眞鍋行博	球磨地域振興局林務課長
10	熊本県	續健一	球磨地域振興局林務課主幹
11	五木村	下村泰臣	農林課長
12	山江村	尾方義和	産業振興課係長
13	相良村	椎葉百城	産業振興課林務係長

次世代林業システムの地域モデルの進め方について(素案)

1 次世代林業システムの地域モデル(提言)の内容

- ・大規模社有林、森林組合、林業経営者、国・公有林等が連携し、集約化によるスケールメリットが期待できるエリアに森林共同施業団地を設定。
- ・林況、路網などの基本情報を共有化。(GIS、データベース化)
- ・販売計画(100%カスケード利用)、伐採・植林・保育計画、高性能林業機械導入計画、路網整備計画、人材育成計画等を内容とするマスタープランを立案。

2 地域モデルの候補地及びその現状

民有林・国有林による「五木地域森林整備推進協定」の区域を第一候補とする。同協定書には、各主体の主伐及び間伐の材積、林道・森林作業道の整備量といった事業量のほか、施業の集約化、間伐材の搬出における低コスト化、効率的な森林施業のための路網の連絡等に係る事項が記載。

3 「五木地域森林整備推進協定」の今後の進め方について(案)

JAPICとしては、民・国連携による共同施業団地の取組に賛同しており、当該協定書に基づく事業計画、取組及び蓄積されたデータを尊重しつつ、成果の発現を加速化させるため、本協定を実験的「地域モデル」事業として位置づける方向で対応したいと考えている。

また、JAPICの知見・技術の活用により、当該協定の充実化が期待できることから、九州森林管理局をはじめとする運営会議メンバーに対し、以下の手順を進めていくことを提案するとともに、運営会議にはJAPICも参画させていただきたいことを要望し、現地の関係者と調整して参りたい。

なお、以下の対応について当該運営会議メンバーの了解が得られ、協定の改訂が行われることをもって地域モデルのマスタープランの作成に替えることとしたい。

(1) 検討体制の整備

同協定に基づき、全協定者から構成される運営会議が設置され、事業の実施や路網の設置等のための連絡調整が行われている。

このため、当該運営会議において当該事業計画を見直すこととし、下記の作業チームを設置する。

なお、各種支援制度を活用する観点から、熊本県等関係する地方自治体の担当者の参加も要請する。

(2) 各種データの共有

各協定者の実務担当者による作業チームを設置し、次の事項(例)について、共通図面化により「見える化」を図り情報共有する。

- ・協定期間内(H25～H29)の主伐又は間伐の実施箇所(実績及び予定箇所)
- ・当該箇所ごとの主間伐の区分、伐採面積・材積、伐採時期、造林時期
- ・保育間伐(伐り捨て)の箇所・材積
- ・既設路網の図示(林道、森林作業道等の区別(以下、「路網区別」という。))
- ・協定期間内の新設予定路線の線形、延長、路網区別

(3) 運営会議による協定者間の連携の取組及び森林整備実施計画の検討

運営会議においては、以下の検討を行う。

- ・同協定に基づく施業の集約化、路網整備等の取組結果を評価して課題を抽出し対応方針を整理する。
- ・JAPIC会員企業が有する知見・技術を活用しつつ以下のような民・国、民・民連携の新たな取組の検討を行う。
- ・共通図面を基にして伐採、造林、路網整備等の地区ごとの具体的な施業計画を検討する。

〈民・国、民・民連携の新たな取組例〉

- ・施業の集約化のための、素材生産の請負作業の発注時期の調整、高性能林業機械共同利用に係る利用時期の調整
- ・各協定者の森林を接続する具体的な路網計画の調整(路網の規格、施工時期等)
- ・採材の共通化、共同の中間土場の設定と効率的な選別・仕分け、協調出荷に関する検討
- ・コンテナ苗やエリートツリーの需給見通しの作成、普及のための現地検討会の実施
- ・木質バイオマスエネルギー用資源(未利用材)の需給調査
- ・ニホンジカ被害の防除対策

(4) 「五木地域森林整備推進協定」の計画内容の変更等

上記の検討を経て、各協定者の合意の下、対象区域の拡大(協定者の追加)も含め、同協定の計画内容を発展的に改訂するとともに、新たな取組については、定期的に効果を検証し改善を図る。

(5) 留意事項

各協定者の組織内での情報共有(縦の連携)を適確に行い、認識のずれが生じないよう助言する。

3 地域モデルからの成果の取扱い(案)

本、実験的「地域モデル」事業で得られた各種成果については、効果検証が出来次第、逐次全国レベルで共有し、日本林業の競争力強化に役立てて行く。

以上